

春のボランティア研修会

2月から3月にかけて、恒例のボランティア研修会が行われました。

第1回は関西大学のトーマス・シュピネル先生の「私の教育指導法」、第2回は京都日本語学校校長西原純子先生の講演、第3回は関西生命線の伊藤みどりさんのお話をうかがいました。その中から、西原先生の講演の感想を掲載します。

京都日本語学校校長 西原純子先生講演 「日本語授業の面白さ」を聞いて

常に学習者のニーズに合わせた学習内容であることが鉄則である。西原先生は、フランス大使館で日本語を教えたことに始まり、説教をするための日本語を宣教師に教え、ビジネスマンのための日本語など、いろいろな土地や場面で日本語を教えてこられた。日本語を教えていくということは、文化の違いや経済状況も考慮しなければならぬ。さまざまな学習者の背景をできるだけ理解した上で、実践的な日本語を教える。文法重視で使わない日本語を教えるべきではないと話された。教室で教える私は、英語も自由に話せないこともあるが相手とのコミュニケーションは完全に日本語である。共通ツールは日本語のみでお互いに意思を伝える。表情、身振り手振り、時には絵を描いて伝え、相手にも日本語で伝わった喜びを感じてもらいたいと思っている。教えていただいたことのひとつに学習したことが実践していきける喜びを1回1回感じてもらうということ。1回の学習時間でも小さな完成を心がけること、1回の学習で何が出来るようになったか、どのように実践していけるかを会得する。その継続的な積み重ねが日本語に対して「使える」自信につながって行く



ことを話された。長年の経験や実体験からの言葉には重みがあり納得する。与えるばかりでは学ぶ喜びは得られない。また、日本語を教えていく上で、日本語自体に日本の文化が出ていくことが多いあることを話された。「よろしくお願ひします。」という「いい関係でいきましょう。」という意味は翻訳することができない。日本語を教えることは日本を教えることでもあり、考え方から理解してもらおうことにつながる。敬語も早くから教えるべきで、初めは丸覚えさせてでも学習者が日本語を使つて相手に失礼のないように教えていく。内と外、上下を区別する日本語を教えることは文化を教えることとなる。日本語は、名詞を並べても何とか通じるところがある。しかし、最後まで聞かないとわからないこともある。同じ言葉なのにシチュエーションが変われば違う意味になることもある。同じ動作で違う言葉違う意味のことを言うこともある。などなど気づかずに使ってきた日本語を改めて考えることは、やはり改めて日本の文化を考えていることにもつながり、非常に楽しい。相手のニーズに合わせて提供していくことはプライベートや仕事にも共通する。ボランティアだといえ、いい加減に考えてはボランティアではなく遊びだ。本業ではないので限りはあるかもしれないが極力「仕事」という位に、自分ばかり楽しむのではなく、これからも学習者と楽しみながら関わっていくつもりである。(吉岡奈穂子)

学習者の

日本留学体験と

市岡の印象

呂 詠鴻(中国)

私は来日8ヶ月目を迎えました。中国の大学では、日本語専攻でした。日本人と会話して付き合ったことがありませんから、日本に来てすぐ生活に慣れました。日本の印象は礼儀正しき、環境の綺麗さ、交通の便利さ、料理のおいしさ、またファッションの素晴らしさ(特に女性がおしゃれ)などを感じました。

私にとって今まで勉強した「日本」を、今実際に自分の目でやっとなんと実感しています。ただし、日本の物価は中国より高いので、買い物にいつも頭の中を為替レートで換算して、結局何も買えません。今になってもそういうこともやはりあります。

私は日本に来て、まず日本語学校で半年間勉強してそれから大学に進学しました。日本語学校で勉強したとき、教室はみんな中国人と台湾人で、学校の寮では全員中国人でした。だから、日本人と日本語を話すチャンスがあまりないから困っていたし、また魅力に富んだ大阪弁や大阪文化を知りたいと思っていました。そんなとき、市岡日本語教室のボランティアであり、かつて中国の大学時代に教えてくれた中原先生の紹介で、NPO 市岡日本語教室を知ったのです。以来、毎週の金曜日の夜ずっと参加してきました。

市岡では、いろいろな話題についてボランティアと日本語で話し合ったり、大阪を案内してもらったり、食事をしたりして楽しくこの半年間の留学生活を送りました。話し合う中で新しい日本語の言葉を勉強できるし、日本の生活や社会について分からないことを教えてもら

えるし、飲み会に行つて違う国から来た新しい友達を作れます。最近担当のボランティアさんは、実生活の中の俗語も教えてくれて面白く思います。それは異文化交流と多文化共生の雰囲気です。もともと外国言語文化を専攻し、中日民間交流を熱心に考えている私は、こういう場所と活動が大好きです。今後大学院で研究したい内容には、こういう場所と活動が有意義になると思います。大学時代に、大阪と東京とは上海と北京というのとみたいという話を聞きました。上海都市圏に属している無錫(よく知られている尾形大作の「無錫旅情」の歌の中の「無錫」)の出身の私は、大阪の都市生活が瞬間に好きになりました。その上、ここには好きな市岡日本語教室があるから、ここで長く生活が続いていきたいと思います。今私は、日本語学校を卒業して大阪府立大学大学院に研究生として入学し、社会福祉を勉強しています。新しい専門知識だから、分らないところがいっぱいあります。でも、日本語学校を卒業して、吹田市から堺市へ一人で引越して、大学に入学してからこの間に、生活や勉強でどんなに苦しくても寂しくても、どんなに悩んでいることがあっても、金曜日の夜になったら気が楽になって楽しく週末を送ります。これから院生になるためにがんばります。もともと決まった研究テーマは高齢社会についての内容でしたが、自分の体験を合わせて研究内容を、地域福祉におけるNPO・ボランティア活動、特に在日外国人に向けたNPOとボランティア活動に変えることにしました。市岡で留学生活の充実と学問研究は、両立できれば幸せだと思っています。

今後の予定

- 7月11日(金) 通常学習
 - 7月18日(金) 通常学習
 - 7月25日(金) 特別学習
(港区民センター)
 - 8月1日(金) ボランティア研修
(弁天町市民学習センター)
 - 8月8日(金) ボランティア研修
(弁天町市民学習センター)
 - 8月15日(金) お休み
 - 8月22日(金) お休み
 - 8月29日(金) 特別学習
(港区民センター)
 - 9月5日(金) 通常学習
- * 時間はいずれも午後7時～
* 通常学習は市岡高校同窓会館
* 特別学習と研修は会場費100円